

健康科学研究科 病院前救急医療学専攻 修士課程

健康科学研究科 健康科学専攻 病院前救急医療学分野 博士課程

教育方法と教育の特色ある工夫

本学の各研究科・専攻は、それぞれの教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、専門領域ごとの特色を活かした教育方法による教育・研究を行っています。教育方法の特色ある工夫としては、入学生に社会人が多いことを活かしたフィールドワーク研究を推奨し、研究の成果を社会に還元できることが挙げられます。

【教育方法】

医療専門職として求められる医療教育や専門分野における基礎実習を行った後、臨床での実践を通して、専門分野における指導者に必要な高度な知識・技術・能力を身につけさせるとともに、医療専門職としての倫理観を養う教育を展開しています。また、専門分野の学会で最新の知見に触れ、そこでの研究発表を視野に入れた学位論文の作成を指導しています。

【教育の特色ある工夫】

- ・ 病院前救急医療学の研究者として自立して研究活動を行い、チーム医療において他職種と連携できる人材を育成しています。
- ・ 救急医療サービスに貢献できるリーダーシップや、最新の病院前救急医療学に関する知識・技術を修得することで、将来的には国際的・学際的な指導力や教育力を発揮できる人材の育成を目指しています。
- ・ 「災害医学特論」では、俯瞰的に考える力を養成するため、実際の災害派遣での経験を活かした講義や演習を行い、現場で役立つ臨床能力の向上につなげています。

【健康科学研究科 健康科学専攻（博士課程）教育の特色ある工夫】

- ・ 修士課程の7専攻に対応した七つの分野（鍼灸学、柔道整復学、健康栄養学、言語聴覚学、作業療法学、理学療法学、病院前救急医療学）があり、修士課程から博士課程へと続く専門分野の連続性が保たれています。
- ・ 人を対象にした研究が主体であり、研究倫理全般と臨床研究の倫理を理解・修得させる目的で、eラーニングを用いた倫理教育を行っています。
- ・ 多様な医療職種の大学院生が共に学ぶ本専攻では、共通科目の授業等を通じて専門の枠を越えて他職種を理解し連携力を身につけることで、健康科学の広い視野に立って臨床や教育・研究の場で活躍できる人材の育成を目指しています。